

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News

2020.10
No.363

ハンガーゼロ・ニュース

1分間に17人 (内12人が子ども)
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています



For Africa

アフリカの希望のために



PLAY
動画スタート



世界食料デー2020 「1食分募金」受付中

Contents

「世界食料デー月間」10/1-11/30 開催中 P.2

ハンガーゼロでの職業体験を終えて P.3

ハンズ・オブ・ラブ活動報告

- ① HOLPFI (フィリピン) P.4-5
- ② HOLC (コンゴ民主共和国) P.6-7

収穫を喜ぶ農家の女性たち
(コンゴ民主共和国ブヴェ)

コロナウイルスの脅威が過ぎ去ることを
祈り信じて、互いに助け合おうと頑張ろう

世界食料デー わたしから始める、世界が変わる

World Food Day 2020

2020「世界食料デー月間」10/1(木)▶11/30(月)開催中

10月16日の「世界食料デー」は1981年に国連が制定、世界に広がる食料問題や飢餓、極度の貧困を考え、解決していくことを目的としています。ハンガーゼロでは今年の募金を「アフリカの希望のために」として①コンゴ民主共和国②ルワンダ③エチオピア④南スーダン⑤ケニアで、子どもたちの学校給食、エイズ孤児や貧困から脱却を図る農家支援、またコロナ感染対策などに用いられます。

今年はコロナ禍で大会は例年の5分の1に減少しました。しかし、大会が開催できなかった各地の実行委員会が、小規模の集まりやオンライン形式でハンガーゼロが用意した現地報告や講演動画などを用いて募金運動に取り組んでくださっています。飢餓・貧困の中でコロナの影響により、食料不足がさらに厳しくなるアフリカの人々の希望のために応援をよろしくお願いいたします。

初のオンライン大会を企画

10月16日の世界食料デーに合わせて、ハンガーゼロでは初のYouTubeライブ配信による「オンライン大会」を20時から開催いたします。通常のような講演や現地報告

主体のプログラムではなく、どなたでも支援先のアフリカに興味を持っていただけるように身近な料理などを取り上げて、楽しんでいただける番組構成にしました。企画は若いスタッフたちが準備しました。ライブのため本番でのハプニングも覚悟の上です。

皆様のお知り合いに紹介ください。多くの皆様に世界食料デーの運動に賛同していただければと願っています。

皆様のお知り合いに紹介ください。多くの皆様に世界食料デーの運動に賛同していただければと願っています。



リハーサル風景



公式チャンネルには10月以降、食料デーに関連した各種の動画を順次アップいたします。支援先の様子や世界の飢餓問題について学ぶこともできますので、是非ご視聴とチャンネル登録をお願いいたします。

●募金方法は右頁をご覧ください!!

2020世界食料デー大会開催スケジュール [9/15 現在]

コロナ対応で大会運営方式や内容などが異なります。最新情報はHP 又は世界食料デー事務局 (TEL.03-3518-0781) までご確認ください。

地区	大会	事務局TEL	開催日	時間	主な内容	会場/運営方式/他
宮城	仙台 【別会場にライブ中継】	03-3518-0781	10/17(土)	13:30	講演: 新里宏二氏(仙台弁護士会会長/前 反貧困みやぎネットワーク会長) パネルディスカッション	①日本バプテスト仙台基督教会 ②仙台福音自由教会【Zoom視聴】 ①②とも来場は事前登録者のみ 登録は仙台大会公式HPから https://sites.google.com/view/sendai-fooday/
滋賀	滋賀 【オンラインのみ】	077-579-3308	公開開始~ 10/16(金) 11月末迄	約40分	講演(ハンガーゼロ田村治郎) 現地活動の報告動画 ゴスペル音楽	滋賀大会実行委員会 ハンガーゼロ YouTube チャンネルで公開 ※YouTube で検索「hungerzero」
京都	京都 【ライブ配信有】	075-311-5051	10/25(日)	15:00	現地報告(コンゴ/ジェローム・カセバ) 講演(ハンガーゼロ安達燎平) 親善大使の音楽ビデオ上映	在日大韓基督京都教会 ※入場は最大80人まで YouTube でライブ配信もあります
大阪	東大阪 【ライブ配信有】	072-964-5144	10/21(水)	19:30	講演(ハンガーゼロ安達燎平) 現地活動の報告動画 親善大使の音楽ビデオ上映	大阪シオン教会 YouTube でライブ配信 https://www.youtube.com/watch?v=jNmRXkh_300
兵庫	芦屋 【ライブ配信有】	0797-31-2093	10/11(日)	14:00	講演(ハンガーゼロ近藤高史) ルワンダのアリススタッフ報告動画 親善大使 ナイト de ライト音楽動画	芦屋福音教会 ※入場は先着30人まで。 ライブ配信は芦屋福音教会のHP から http://www.ashiyagospel.or.jp
岡山	岡山 【参加者限定】		10/25(日)	10:00	学校対抗プレゼンテーション (岡山県内の高校生がリモート形式で参加予定)	IPU(環太平洋大学)キャンパス内 ※参加学生のみでの大会 ※主催:WFDイベント企画実行委員会

みんなでアフリカに希望を届けよう！



飢餓啓発講演・現地報告・親善大使の音楽など
各種の動画や募金箱などのツールを用意
子どもたちと学べるブックレットも！



ツールの希望者は東京または大阪事務所までご連絡ください

2020年世界食料デー For Africa の募金先

- (1) コンゴ民主共和国：地域リーダー育成、農業支援
- (2) ルワンダ：小規模農家への持続可能な農業支援
- (3) エチオピア：エイズ孤児などへの食料支援
- (4) 南スーダン：学校給食支援
- (5) ケニア：食生活安定のための農業支援

募金方法
は2種

- ①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構「世界食料デー募金」と明記
- ②ホームページの世界食料デー特設ページから募金

国際協力の見方が変わりました

新井光歩子さん インターンを終えて



インターンシップについては各事務所までお問い合わせください

私は都内の大学に通う大学生でクリスチャンです。国際協力に興味があり、聖書の世界観から国際協力を考えてみたいと思い、インターン（職業体験）をさせていただきました。インターンでは、人材育成と称して、職員の方々にとっても丁寧に指導していただき本当に感謝しております。

インターンを通して、国際協力についての見方が変わりました。一番印象に残っているのは、ハンガーゼロの掲げる理念とビジョン、それを徹底して実現させようとする活動です。自分たちには何もできないと物質的、社会的、精神的、霊的に落ち込んでいる人たちに、神様から本来与えられているものをきちんと用いて立ち上がる変革と自立を促すのがハンガーゼロの働きだと知りました。さらに、支援する側の価値観の押し付けにならないように、その支援が現地の状況の改善や人々の自立を本当に促すものなのか考慮し、現地の人々主導で取り組むことこそ重要であると学びました。この短い文章でそれらを十分説明するのはとても難しいです。しかし、そのようなハンガーゼロによる支援からは、自分たちの思いや、やり方に捕らわれずに、へりくだって現地の人たちに仕え、本当の意味での彼らの発展を促すという姿勢を強く感じました。他の国際協力の団体とは一味異なる、その活動を垣間見ることができてとても勉強になりました。

HZパートナーとなってチャレンジします

インターンの最後に、私自身がハンガーゼロパートナーと発表できることを発表する機会を頂きました。その発表の一部をご紹介します。

考えたことの一つは、私の所属する教会で催すバザーでハンガーゼロのブースを出すということです。地域の人たちの教会に対するハードルを下げるためのバザーでもあるので、普段教会に来ない方々が来られます。教会主導で開催するバザーに国際協力団体のブースを置くことで、教会として大切にしていることを発信できると思いますし、ハンガーゼロを支援し、認知度を高めることにもつながると思います。

もう一つ考えたことは、英語で世界の貧困や飢餓について学ぶクラスを開くことです。私は大学卒業後に英語教師になるので、将来的に、英語と世界の飢餓貧困についての教育を合体できたら良いなと思っています。

パートナーとしてできる様々なことを他にも考えましたので、インターンで学んだことを思い出しながら自分のできることをしていきたいと思っています。



オクダデザインプロジェクト 施工例
ガレージハウス富士見平

Okuda DESIGN PROJECT

貸したい時も、借りたい時も。不動産賃貸のご相談は—

インターネットでお部屋探し。
www.okuda-re.co.jp
代表取締役社長 奥田 英男
〒197-0003 東京都福生市熊川 447-9
総合不動産 有限会社オクダ商事
総合建設 オクダ建設株式会社

042(552)0102(代)

コミュニティの問題に村人が主体的に取り組めるように励まし、自立や次世代の人材育成を支援



移動中のスタッフ（丸写真）④移転後にもう一度村づくりの学びを実施（アルサビ）

フィリピン／ハンズ・オブ・ラブ・フィリピンのエバスタッフからの報告

ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン（HOLPFI）はコミュニティの自立に向けて人々と共に13年間歩んできました。人々が自分に与えられている潜在能力や資源に気付き、希望をもって持続可能な生活の質の向上を目指すことができるように支えています。駐在員の酒井保・慶子スタッフは、昨年始めのNPA（共産ゲリラ）の出没や今年のコロナ感染拡大により安全面や国の厳しい渡航制限で現地に入れない状況が続く中、HOLPFIスタッフを通じて現地の人々をフォローしています。今回は、ミンドロ事務所責任者でプロジェクトマネージャーのエバ・パノピオが報告します。彼女は2017年に世界食料デー大会での現地報告者として来日しています。

マンヤンと呼ばれているミンドロ島原住民のタウブイド族の人たちが暮らすアルサビ村（以前のマイ村）は、HOLPFIが関わっている地域の一つです。人々は5年前、私たちの働きを通して、自分たちの村をどんな村にしたいのかに気付きました。そして子どもたちが読み書きを学べる公立学校が欲しいという夢を持ちました。そうすれば進級して学校に通い続けることができるからです。アルサビ村は近くの村へ7.7km、歩いて2、3時間です。その村に行けば日用必需品を買うことができ、学校、ヘルスセンターがありますが、マヨ川とスندا川という2つの川を38回渡らなければなりません。子どもを学校に行かせたい、という人々の夢は叶うべくもありませんでした。



お父さんたちによって新たに増築された2教室（アルサビ）

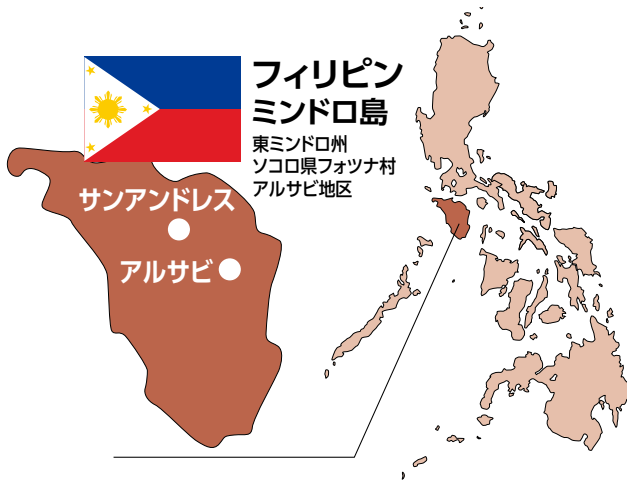
学校は自分たちで建てればいんだ

村の人たちは目標を達成する方法を変えることにしました。自分たちで学校を作ることにしたのです。今、村にはお父さんたちが建てた4つの教室があり、教育省から先生が3人派遣され、今年は幼稚園から3年生まで66名の子どもたちが登録されています。教育省はコロナの影響で8月24日から新学年とし、モジュールを用いての自宅での学習、またはオンラインでの学習を始める予定でしたが、準備が間に合わず、始業日は10月5日に延期されました。

教育と共にアルサビ村の人たちは清掃、水源、健康と衛生、リーダーシップトレーニング、ファイナンスマネジメント、土地の権利取得のための勉強などに取り組んでいます。村の人たちはここ数年で自らが率先し、責任をもって一つ一つのプロジェクトに取り組むことの大切さを知ると同時に、目標達成には時間がかかること、忍耐、一致、お金、



教育支援保護者会の様子（アルサビ）



努力が必要であることに気が始めています。

変革は時間のかかるプロセスです。人の考え方や行動は文化、信念、価値基準によって形作られていくからです。HOLPFIはリーダー自身が今までとは違う考え方を取り入れて、地域の人々の必要に応えることができるよう関わり続けていきます。

サンアンドレス地区教育支援

「分かち合うことは思いやること」と言われていることは真実です。貧困の中にある若い人たちが将来の夢を達成するために学べる道を備える Blessed Education Program (神の祝福の中にある教育プログラム=略して BEP)は、フィリピン国内の支援者によって支えられています。2009年に



教育支援保護者会 (タガログの村)

HOLPFI が通学支援として始めたプログラムから派生した支援です。地方にある村から公立中学、高校は遠く、村からのジプニー (乗り合いタクシー)は1日に1台しか出ていません。このような限られた交通手段では通学することも簡単ではありません。これは個人の問題ではなく、コミュニティ全体の問題でもありました。

BEP プログラムは、子どもたちが中・高等教育を受ける事の大切さを村の人々が受け止めたことで、今も村で継続されています。2015年に HOLPFI はサンアンドレス村の地域開発を一旦終了しましたが人々とのつながりは続いており、その村の最も貧しく、経済的に困窮している家庭の若者をこの BEP プログラムを通して支援しています。

HOLPFI は教会や個人個人に働きかけ、支援者を募って支援金を集め 2015年から 2020年に総計 62人の生徒を

支援することができました。17名が中学を5名が高校を、1名が大学を卒業しました。このプログラムも他のプログラム同様、多くのチャレンジがあり、修正が必要な面も残されています。せっかく与えられた学びの機会を途中で手放してしまった生徒たちもいました。しかし期待いっぱいの将来に向かって必死で頑張っている生徒たちを、支援者たちは希望を持って応援しています。

地域への奉仕を通じて心を育む

奨学生たちはそれぞれの必要に応じて交通費、授業料、寮費の支援を受けます。今年は中学生から大学生まで 30名の奨学生を 13名の支援者が支援してくださっています。HOLPFI は経済的支援に加えて、年に 2 回、学校の休暇中にキャリア開発の学びとカウンセリングを行なっています。このセッションではビジョンを持つこと、将来の計画を立てること、自分たちを育ててくれた地域に貢献すること、卒業した後、困っている人を助けることを学びます。

また BEPの奨学生は毎年 100時間、地域に奉仕することが義務付けられています。タガログの奨学生は地域で勉強に困難を覚えている子どもたちの家庭教師をし、マンヤンの奨学生は村に落ちているプラスチックゴミを拾ったり、水源からのホースを修理したり、村のゴミ捨て場の穴を掘ったり、雑草抜きをして村をきれいにしています。他の学校の生徒もこの様子を見てこの活動に参加しています。保護者は子どもたちが、勉強の機会を与えられているだけではなく自分たちの住む場所に気を配り、また他の子どもたちに影響を与えているこのプログラムに感謝しています。

コロナの世界的流行の中、またどんな変化が起こるかはわかりませんが、奨学生たちが地域の変革にどのような役割を担ってくれるのか期待をしています。大きな心で支援し、子どもたちに祝福を与えて下さっている方々が、若者を善良で責任感のある地球市民へと成長させて下さっています。1人が1人を支えることが将来への希望を生み出すようとしています。

HOLPFI (Hans of Love Philippines Foundation Inc.)

2008年JIFH(現 HZ)の支援を受けて、フィリピンにおいて持続可能な開発(ビジョンオブコミュニティ)を推し進めるために立ち上げられました。それ以来、東ミンドロ州の山間部で原住民マンヤン族をはじめ、住民自身が主体となる活動支援を続けています。HOLPFIは、HZの酒井保駐在スタッフが責任を担っています。





コロナ感染拡大の脅威から もっとも弱い立場の人々を守るため スタッフを派遣して予防講習を実施



コンゴ民主共和国／ハンズ・オブ・ラブ・コンゴのジェロームスタッフからの報告

ソーシャルディスタンスは贅沢なこと

2020年3月10日、コンゴ民主共和国では最初の感染例が報告され、現在9,700人以上の感染が報告されています。

この流行に対処するために、政府も感染防止策をとりました。国中にマスク着用を強制し、定期的に石鹸で手を洗うこと、アルコールジェルを使用すること、オフィスや教会、店舗、スーパーマーケットほか、公共施設に入る際に検温をすることを義務づけ、ソーシャルディスタンスの徹底。これらの手段はすべて感染拡大のリスクを下げるためのものです。

しかしここコンゴ民主共和国のおよそ8,000万人の人々にとってソーシャルディスタンスは、贅沢なことです。それは、それを実行できるだけの住居に住んでいるということです。手洗いも贅沢なことです。それができるのは清潔な水が身近にあるということです。手を消毒できるのもそれを買うだけのお金があるということだからです。ロックダウン（外出自粛）は贅沢なことです。それは家にとどまっている余裕があるということだからです。ソーシャル・ディスタンスやロックダウンを実行できている人は、とても幸運です。コンゴでは多くの人々が実行できません。

コロナによって最初に仕事を失う人々

コンゴの労働者、即ち90%の人々は、地域の市場で地域の物や輸入された物売る商売をして生計を立てています。それ以外の人たちは収入の少ない不安定な仕事についています。コロナによって仕事を最初に失うのはこのような労働者と商売をしている人たちです。これらの人たちは生活の困窮に直面するだけでなく、次の収入をどこから得られるのか分からないという不安を募らせています。家族がこの感染症の危機を乗り越えて生き残ることができるかど

うかの瀬戸際に立たされているのです。このように既に弱さのある人々の上に、さらに飢餓、ホームレス、ストリートチルドレンそして希望の喪失という恐れが持ち上がっています。このため以前にもまして私たちは必要とされています。共に努力をすれば克服できます、もっと強くなれます！その努力一つ一つが、誰かの命に大きな影響を与えることになるのです。

この悲惨な状況を踏まえてHOLCは、支援地で出来るだけ多くの人々に、コロナ感染予防の支援をするための活動を始めました。この困難にこれらの弱い人々が自分で立ち向かうままにさせておくことは、私たちにはできません。私たちはこの共通の困難の中、自らの身を守ることでできない人々を共に一致して守らなければなりません。



学校や村を訪れ手洗いキットの提供や感染予防の説明を行う(ブウェト)

備蓄をしながら社会貢献



世界にパンを届けよう



皆様から回収された救岳鳥は
各地に飛んでいきました！



食料が不足している、
国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、
海外の飢餓地域等へ送られました。



おいしさとお届けします。

株式会社パン・アキモト

パンの缶詰
since 1995

〒329-3147

栃木県那須塩原市東小屋295-4

TEL 0287-65-3351

パン・アキモト

検索

※「協賛広告」を募集しています。ウェブにも掲載。詳しくは大阪事務所まで



消毒液を手にする孤児院の子（キンシャサ）

5つのコミュニティで感染予防支援

2020年8月14日、HOLCはキンシャサ及びプウエトの5つのコミュニティでコロナ感染予防支援を行いました。これらの人々の困難を和らげるために、近い将来更なる支援を始める予定です。政府によって国中のロックダウンが解除されて教会、学校、競技場、店舗、スーパーマーケット、また公共施設が現在開かれています。私たちは再び新しいコロナがやってきてコンゴの何万人もの人々が感染するのではないかと恐れています。

キンシャサ…孤児院の子どもたちに予防法を伝える

支援物資を配布する前に孤児院のスタッフと子どもたちにコロナ感染症についてよく理解してもらいました。コロナの危険性だけでなく、政府と保健の専門家によって推奨されている様々な予防策をしっかり守ることによって自分自身を守ることを説明しました。

コンゴでは多くの人が字を読めませんので、予防法を守るメリットを受益者に説明することが大切です。ロックダウンが解除されてもこのような予防策は続けなければなりません。説明が終わってから以下のものを孤児院の関係者に渡しました。

洗えるマスク 120枚、アルコールジェル 350ml 1箱、液体石鹸 1箱、アルコールジェル 120ml 1箱、手洗いキット 4セット。

子どもたちはマスクをただちにつけ、特に学校に通っている生徒たちは何時でも使えるようにそれぞれ小さな

120mlのアルコールジェルを受け取りました。手を洗う水が身近にない彼らにとって、どこでも消毒できるジェルはとても便利な物です。

プウエト…5つの村で講習会と感染予防キット配布

5つの村の受益者の数は子どもを含めて661人です。配布を始める前にキンシャサでおこなったように、コロナ感染症についての知識の喚起が必要です。プウエトは僻地^{へきち}ですのでコミュニティの人々のコロナに対する理解はきわめて限られていました。多くの人たちがこの感染症について知らず、コロナの危険性に気づいていませんでした。政府や保健の専門家によってすすめられている方法を実行する大切さを伝えました。

プウエトでのこの啓発活動は、現地のHOLCのスタッフによって行われました。プウエトで私たちは以下のものを配布しました。

保護マスク 661枚、塩素溶液 20パック（手洗いキットの水に入れる）固形石鹼 10箱、手洗いキット 7セット、6セットをHOLCがコミュニティ教育プロジェクトとして支援している子どもたちが通う3つの学校に、1セットをコミュニティセンターへ。

受益者一人一人が、マスクと塩素溶液の瓶、手を洗うための固形石鹼を受け取りました。

HOLCは現地パートナーと共に、世界中でコロナによる困難の中で弱さを覚えている人々や貧しい人々を助け、支援することができることを願っています。

HOLC (Hands of Love Congo)

2013年にハンガーゼロのパートナーとして、現地法人(ハンズ・オブ・ラブ・コンゴ)を設立。飢餓・貧困に苦しむ方々への支援を行っている。

主にプウエト内の3つの村の地域住民の自立のための共同農園事業・コミュニティ作りを支援している。

ルブンバシ市では子どもたちの食事支援。首都キンシャサでは、現地法人ASOMIPを通じて孤児院の給食を支援。また2019年からはカレミにおいて「平和と和解」のためのプロジェクトを開始した。運営責任はハンガーゼロのジェローム・カセバスタッフが担っている。



YouTubeチャンネルは「hungerzero」で検索

HOLCの報告はハンガーゼロYouTubeチャンネルで公開予定

HOLC支援方法…①「世界食料デー1食分募金」(P.3)または下記②「緊急救援募金」でもコンゴを支援できます



コロナ感染から守る「緊急救援募金」に応援をお願いします

募金は、郵便振替又はウェブサイトからクレジットカード決済が利用できます。ウェブサイト <https://www.jifh.org> ※ハンガーゼロで検索又は右QRコードから郵便振替 00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構 ※記入欄に「緊急救援募金」と明記募金集計：9月13日現在で約718万円、皆さまの応援を心より感謝いたします。



スマホから募金ページに



ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18か国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。



**キングダムビジネスから
マスクでポリビア支援!**
伝統の布アグアヨで作成

ハンガーゼロニュース 8月号No.361に掲載された連載記事〈特別編〉を読まれた方から、新型コロナウイルス感染拡大で苦しんでいるポリビアの生活困窮者を支援したい、との声が寄せられ、POLOSブランドの制作者の協力で作られたマスクです。ポリビア伝統の布(アグアヨ)が使われています。販売収益の一部はポリビア支援に用いさせていただきます。色、柄はお任せください。
 ① 2枚 1,200円 ② 3枚 1,500円 (税、送料込 ポストにお届け)
 お申し込みの際①か②をお知らせください。



好評 ハンガーゼロカレンダー
2021年版「地球家族」

A4サイズ(掲示時はA3サイズ)。昨年よりも紙を厚くして、書き込みスペースを大きく改良しました。送料込みの価格となります。

【価格】1冊 1,100円(税、送料込)
 ※国内へのお届けに限ります。
 ※4冊までは郵便、レターパックで送料込みでお届け。(沖縄・北海道も含む)
 ※5冊以上は宅配便でお届け。北海道



と沖縄は1梱包つき800円をご負担ください。

【マスクとカレンダー共通】

お申し込み、お問い合わせ:
 (株)キングダムビジネスで検索
 電話: 06-6755-4877
 FAX: 06-6755-4888
 でも承ります。
 スマートフォンはQRコードから▶
【お支払い方法】
 当社指定口座へ後払い
郵便振替 00950-0-216776
 (株)キングダムビジネス



理事・評議会を開催
2019-2020年度決算報告

一般財団法人 日本国際飢餓対策機構の「定例理事・評議会」が9月18日(金)に大阪で開催されます。(オンライン出席者も含む) 決算報告に基づき、各事業部活動報告、新型コロナの緊急救援募金、コロナ感染拡大による事業への影響などについて討議されます。

●**世界食料デー沖縄大会が中止**
 コロナ感染対策のため沖縄地区6大会は中止されましたが支援は行われます。(P.2 参照)

※▶記入後にスマホで撮影し、下記メールアドレスにお送り頂いても受付いたします。

学校や公共の図書館に配布
SDGsのきほん
 未来のための17の目標・飢餓
 ポプラ社 32頁 2,200円
 子ども向けのシリーズで、1巻につきSDGsの1目標ずつ解説しています。世界の飢餓の現状や飢餓が起こる原因、飢餓をなくすには?、わたしたちにできること、などが写真と共に分かりやすく書かれています。その中で飢餓に苦しむ人々を支援するための活動を行っている団体として **HungerZero** も紹介されています。折り紙でG's君の作り方もあり、楽しみながら飢餓を理解できる本です。書店でもお取り寄せできます。

サポーターお申し込み欄 FAX072-920-2155

氏名			
(TEL)			
住所	〒		
申込日	年	月	日 NL 363号

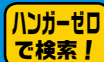
<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月()円 □(1000円) ②一時募金として 円協力します。
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月()円 □(500円)
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落とし申込書を送って下さい。
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落とし申込書を送って下さい。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在... **4863** 口

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
 eメールアドレス general@jifh.org
 フェイスブック facebookでハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
 ①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
 ②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
 (広島) TEL(072)920-2225 FAX(072)920-2155
 東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
 (東北) TEL(03)3518-0781 FAX(03)3518-0782
 愛知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 名古屋YWCAビル6F
 TEL(052)265-7101 FAX(052)265-7132
 沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メソソク米202号
 TEL(098)943-9215 FAX(098)943-9216
 U.S.A. Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
 8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
 TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター

●Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに917,606ポイント(円)のご協力(10,130件)がありました。Tポイント募金で検索。
 ●「つながる募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。